資料-７

７．水源地域の課題整理（※第２回委員会配布資料）

７－１．城原川ダム建設予定地域の概要

（１）城原川ダム建設予定周辺地域の概要

１）位置

佐賀県東部に位置し、南北に細長い神埼市において、城原川ダム建設予定周辺地域（以下、ダム水源地域と称す）は、市の北部から中央部かけて位置している。ダム水源地域は、西部を佐賀市、北部を福岡市、西部を吉野ヶ里町と接している。また、脊振町は脊振山をはじめ、自然豊かな地域となっている反面、神埼町は市の中心街に近く、市内の都市機能が集約している地域となっており、ダム水源地域は南北で地域特性が異なる地域となっている。

図 7-1　ダム水源地域位置図（出典：神埼市観光協会 HP）

２）歴史

神埼市は、平成 18 年 3 月に 3 つの町村（神埼町、脊振村、千代田町）が合併してできた自治体であり、ダム水源地域はその中の旧脊振村及び旧神埼町の 6 地区(仁比山、朝日、小渕、的、三谷、志波屋)から成る地域である。

中でも脊振町（旧脊振村）は、脊振山一帯を「脊振千坊」と称され、かつて山岳仏教で名高い土地であったことから、石塔などの痕跡を見ることができる。また、山伏の修行に由来する火焚き行事「ホンゲンキョウ」が現在もなお伝統行事として引き継がれている。

３）交通

3 市町に囲まれているダム水源地域には、各市町に続く県道 21 号（三瀬神埼線）や県道 46 号（中原三瀬線）、県道 51 号（佐賀脊振線）が整備されている。これにより、市内だけでなく、市外の他地域との交流・連携が可能となり、人口の流入、産業の活性化、観光振興に寄与することが見込まれている。

一方、鉄道網は整備されておらず、少子高齢化が進行するダム水源地域では、自動車を運転できない住民における日常生活の利便性の欠如が懸念されている。

４）産業

ダム水源地域における産業別就業者の割合（平成 17 年）は一次産業が最も高くなっており、農林業が主体となっている。

農業においては、シイタケ、干し柿、高冷地野菜などが栽培されている。しかし、平坦な地域がないことやイノシシ被害により兼業農家が大半となっており、これら生産物を特産品として売り出すためには生産量不足が課題となっている。

林業においては、外国材の輸入による国産材の需要減少及び価格の低下など、厳しい経営状況を強いられているが、林道の開設、改良、舗装など、林業振興事業を重点的に進めている。

これら主要産業の課題として、事業を担っていく後継者不足や兼業化が挙げられており、雇用確保や企業誘致のための施策が必要となっている。

５）観光

脊振町は、脊振山系における豊かな自然を生かした遊歩道や自然公園が整備されており、来客者の憩いの場となっている。神埼町においても、九年庵や仁比山神社などの歴史的建造物や、高取山公園の農産物直売所やわんぱく公園など、幅広い世代に好まれる観光資源が多く点在している。

また、神埼町の「長崎街道かんざき宿場まつり」、脊振町の「わんぱくまつり」や「ふるさと夏まつり」など、地域の特性を活かしたイベントも恒例行事となっており、観光振興に寄与している。

一方、渓流祭りや釣り大会など、現在中止となっているイベント、また複合施設を活用した拠点づくりや、人材を広く発掘し、指導者を育成していくことなど、再評価や PR の検討が必要な観光資源など、観光振興における開拓・改善の余地も大いに残されている。

図 7-2　長崎街道かんざき宿場まつり
（出典：第２次神埼市総合計画）

図 7-3　脊振町わんぱくまつり
（出典：第２次神埼市総合計画）

（２）城原川ダム建設予定周辺地域の概況

城原川ダム建設予定周辺地域の概況を以下に示す。

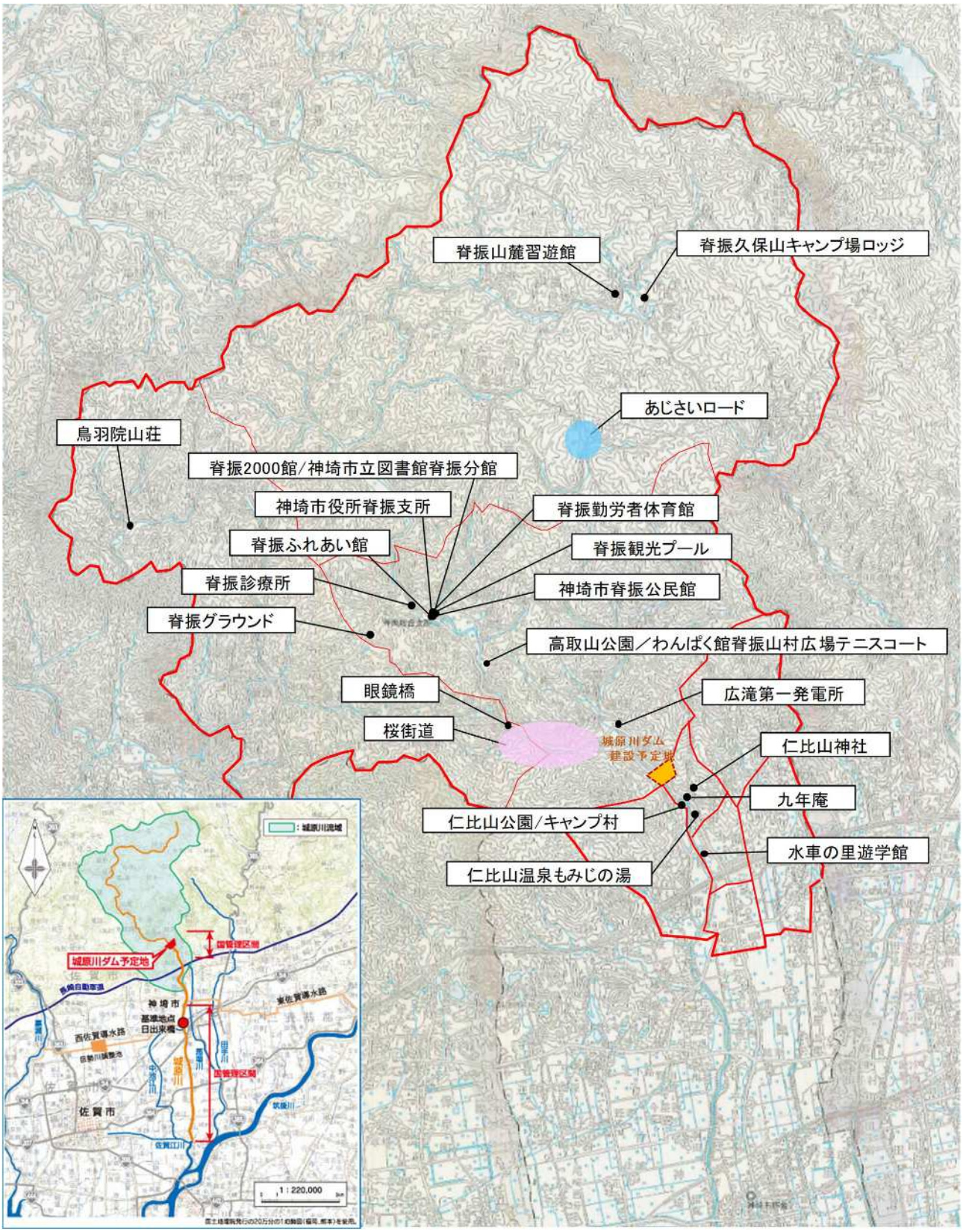

図 7-4　城原川ダム建設予定周辺地域の概況

（３）城原川ダム建設予定周辺地域の地区特性

１）水没予定地域周辺の人口ビジョン＞総人口及び年齢３区分別の人口の推移（高齢化含む）

①神埼市

・総人口は、2000（平成 12）年の 33,648 人をピークに減少傾向に転じ、2015（平成 27）年は、31,842 人となり、人口減少が進んでいる。
・減少を続けている「年少人口」は、1995（平成 7）年の 5,685 人から、2015（平成 27）年には、4,324 人まで減少し、この期間における減少率は 24.0%（1,363 人）で、少子化の傾向が顕著となっている。
・増加傾向にあった「生産年齢人口」は、2000（平成 12）年の 21,481 人をピークに減少傾向に転じ、2015（平成 27）年は、18,427 人となり、「生産年齢人口」約 2.03 人で「老年人口」１人を支えていることになる。
・「老年人口」は増加傾向にあり、1995（平成 7）年以降、「年少人口」を数、割合とも上回るようになり、2015（平成 27）年には、9,091 人と「年少人口」の２倍を超え、1995（平成 7）年の 6,120 人と比較すると増加率は 48.5%（2,971 人）で急速に高齢化が進んでいる。

②ダム水源地域

・総人口は、1995（平成 7）年以降減少し続け、3,900 人から、2015（平成 27）年は、3,261 人となり、この期間における減少率は 16.4%（639 人）で、人口減少が進んでいる。
・減少を続けている「年少人口」は、1995（平成 7）年の 588 人から、2015（平成 27）年には、376 人まで減少し、この期間における減少率は 36.1%（212 人）で、急速に少子化が進んでおり、構成比は 11.5%と神埼市全体の 13.6%より少ない。
・「生産年齢人口」も同様に減少しており、1995（平成 7）年からの減少率は 25.2%（607 人）である。構成比は 55.2%と神埼市全体の 57.9%と同程度である
・「老年人口」は増加傾向にあり、1995（平成 7）年からの増加率は、20.0%（181 人）である。構成比は 33.2%と神埼市全体の 28.5%より多い。

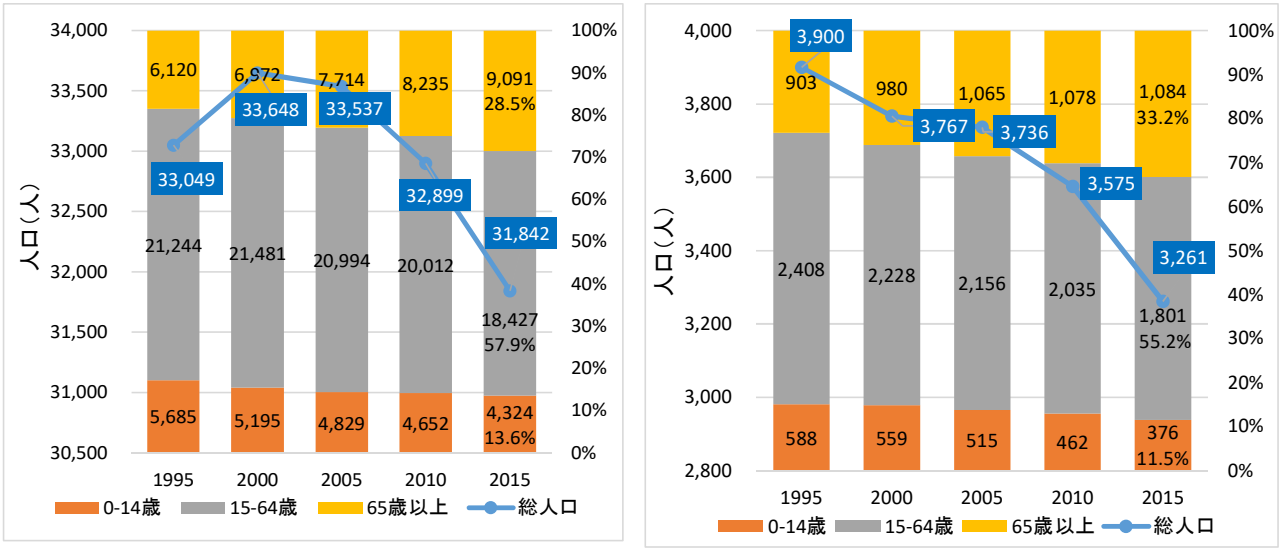

図 7-5　年齢３区分別の人口の推移（左：神埼市　右：ダム水源地域）

出典：国勢調査　小地域推計

２）産業（３部門）別就業者数の推移（産業人口）

①神埼市

・産業（３部門）別の就業者数の推移をみると、「第１次産業」では、1995（平成 7）年の 2,208 人から 2015（平成 27）年には 1,430 人と約 35%減少している。
・「第２次産業」でも、5,527 人から 4,224 人に減少している一方、「第３次産業」では 8,990 人から 10,183 人までと約 13%増加している。また、2010（平成 22）年から 2015（平成 27）年は人口減少に伴い、すべての産業人口にて減少している。

②ダム水源地域

・産業（３部門）合計の就業者数は、1995（平成 7）年以降減少し続け、1,998 人から、2015（平成 27）年は、1,616 人となり、この期間における減少率は 19.1%（382 人）で、人口減少が進んでいる。
・産業（３部門）別の就業者数の推移をみると、「第１次産業」では、1995（平成 7）年の 399 人から 2015（平成 27）年には 250 人と約 37%減少している。
・「第２次産業」でも、611 人から 401 人に減少している一方、「第３次産業」では 988 人から 965 人までとほぼ同等である。
・３部門別の構成比では、第１次産業は神埼市では 9.0%に対し、ダム水源地域では 15.5%と一次産業の割合が高い。

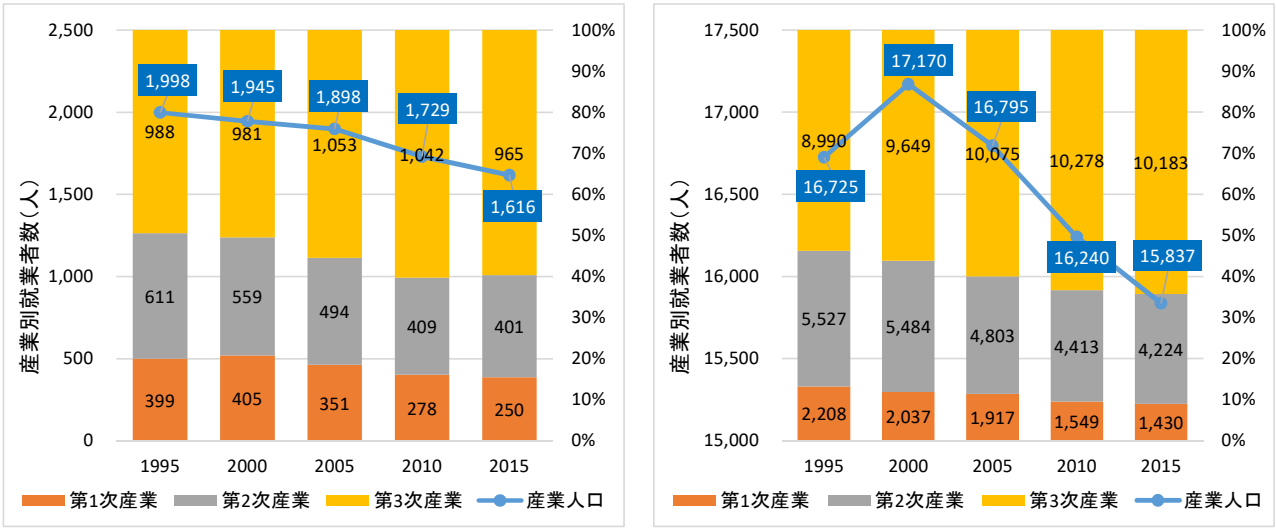

図 7-6　産業（３部門）別就業者数の推移（左：神埼市　右：ダム水源地域）

出典：国勢調査　小地域推計（年齢不詳は除く）

参考：国勢調査報告書等における区分

部門	内訳
第1次産業	農業・林業、漁業
第2次産業	鉱業・採石業・砂利採取業、建設業、製造業
第3次産業	電気・ｶﾞｽ・熱供給・水道業、情報通信業、運輸業・郵便業、卸売業・小売業、金融業・保険業、不動産業・物品賃貸業、学術研究・専門・技術サービス業、宿泊業・飲食サービス業、生活関連サービス業・娯楽業、教育・学習支援業、医療・福祉、複合サービス事業、サービス業（他に分類されないもの）、公務（他に分類されるものを除く）

３）将来人口の推計と分析

神埼市の将来人口の予測は、「神埼市人口ビジョン」に掲載されている。これまでの自治体の人口ビジョンについては、自治体全域での推計に留まっていた。一方、我が国では、本格的な少子高齢・人口減少社会に突入し、これまでの拡散型の都市構造から、生活利便施設の維持やアクセス性の向上、環境負荷の低減、都市経済の生産性向上等につながるコンパクトなまちづくりが、今日の都市計画上の重要な課題となっている。

これらの背景を踏まえ、国土交通省 国土技術政策総合研究所 都市研究部 都市開発研究室にて、「小地域（町丁・字）を単位とした将来人口・世帯予測ツール」が公開されており、「立地適正化計画作成の手引き」（国土交通省都市局都市計画課）においても、地区別将来人口予測手法の一例として紹介されている。対象のダム水源地域においても、上述の通り、「小地域（町丁・字）単位」にて人口の推移を取りまとめたことから、これらのデータを用いて、「小地域（町丁・字）を単位とした将来人口・世帯予測ツール」にて将来人口の推計と分析を実施した。

今後のダム水源地域の人口の推移についての考察は以下のとおりである。

■ ダム水源地域

- 小地域毎のパラメータの総人口は、基準年の 2015（平成 27）年以降は減少し続け、30 年後の 2045 年は、1,211 人となり、この期間における減少率は 62.9%（2,050 人）で、半減以上人口が減少する推計結果となった。
- また、社人研のパラメータ（全市）の総人口も、同様に基準年の 2015（平成 27）年以降は減少し続けるものの、その減少率は、小地域毎のパラメータより低く、30 年後の 2045 年は、2,154 人となり、この期間における減少率は 33.9%（1,107 人）で、1/3 の人口が減少する推計結果となった。
- 両推計に用いられるパラメータとして、「自然増減」（出生と死亡）及び「純移動」（転出入）という二つの「人口変動要因」が大きく異なり、特に「純移動率」は小地域単位で用いるパラメータであり、小地域毎のパラメータと社人研のパラメータ（全市）の推計結果で大きな差が出ている要因と考えられる。
- 先述したとおり、ダム水源地域では、経年の人口推移から若年層の流出が大きい。総人口の減少は避けられないものの、今後の地域振興等の計画において、これらの人口流出を留めることが、人口減少を緩和させる要因になると考えられる。

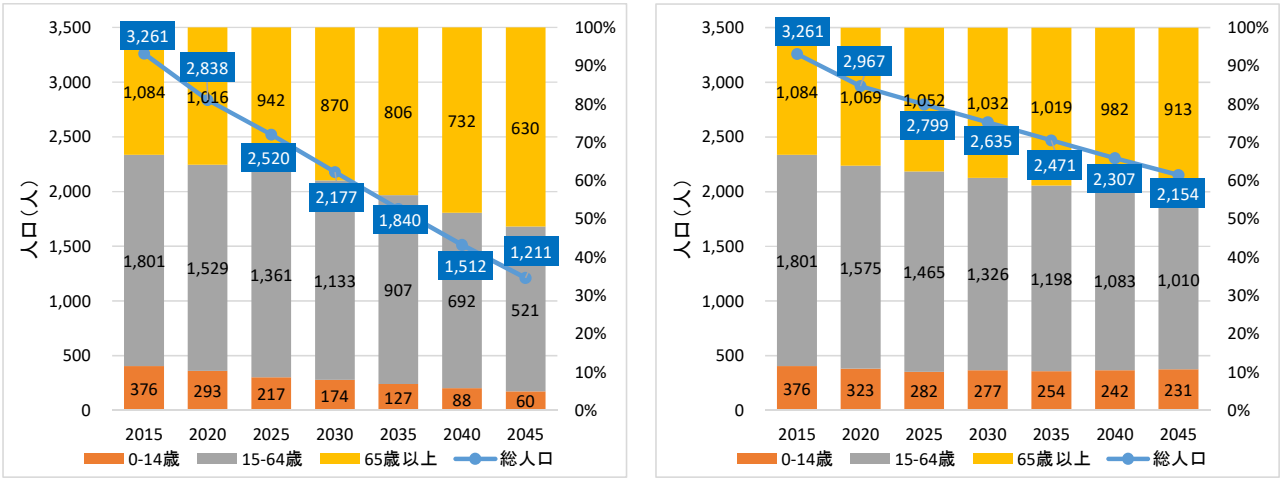

図 7-7　年齢３区分別の推計人口の推移（左：小地域毎のパラメータ　右：社人研のパラメータ（全市））

■ 神埼市

・両推計ともに大きく変わらず、社人研のパラメータの総人口は、基準年の 2015（平成 27）年以降は減少し続け、30 年後の 2045 年は、24,283 人となり、この期間における減少率は 23.7%（7,561 人）で、1/4 程度人口が減少する推計結果となった。

・総人口の減少は避けられないものの、人口ビジョンにまとめられているように、人口減少を抑制することにより、人口の若返りが期待できる。

・加えて、高齢者の健康寿命を延ばし、高齢期も就業できるような「健康長寿社会」が実現できれば、更なる改善を見込むことができる。

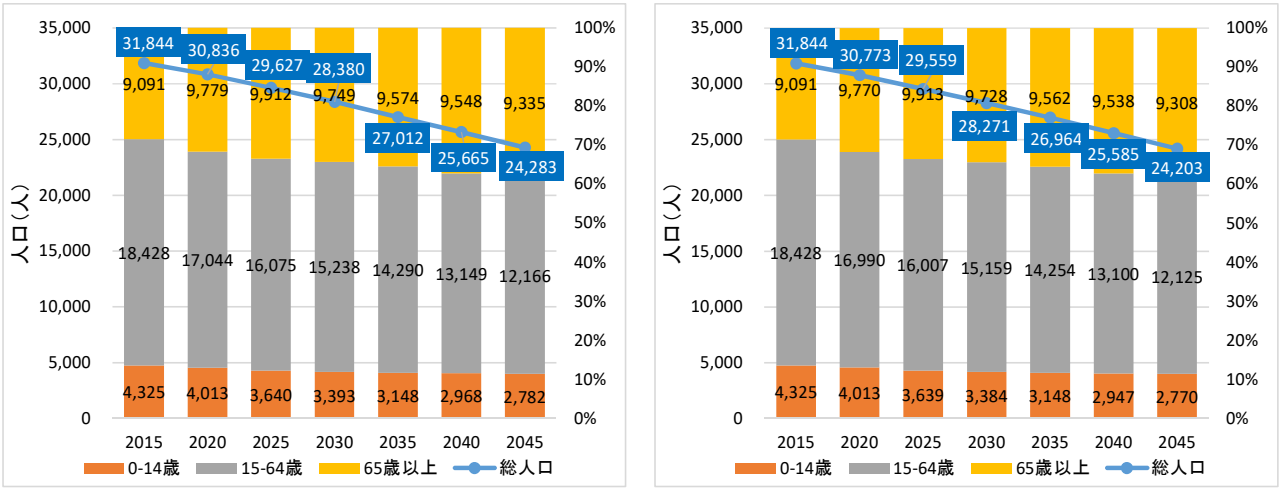

図 7-8　年齢３区分別の推計人口の推移（左：小地域毎のパラメータ　右：社人研のパラメータ（全市））

４）農林業

・農林業センサス（全国、佐賀県、神埼市）において、神埼市では、「耕地面積率」、「水田面積率」、「林野面積率」、「販売農家数」の項目で佐賀県を上回っている。

・後述するとりまとめ結果では、・平坦な地域がなく、非常に恵まれない立地条件であることから、農業経営は極めて零細であり、しいたけや干柿などを特産品とするには生産量が不足している。

５）交通

・昭和自動車株式会社による三瀬神埼線路線バス及び脊振町通学バスの運行が令和 2 年 3 月末で廃止されたことを受け、地域住民の通学、通院及び買い物等に欠かせない重要な移動手段であるという認識のもと、関係機関等と地域公共交通の維持・確保に向けた協議を行い、令和 2 年 4 月 1 日からデマンドタクシーによる新たな運行が実施されている。

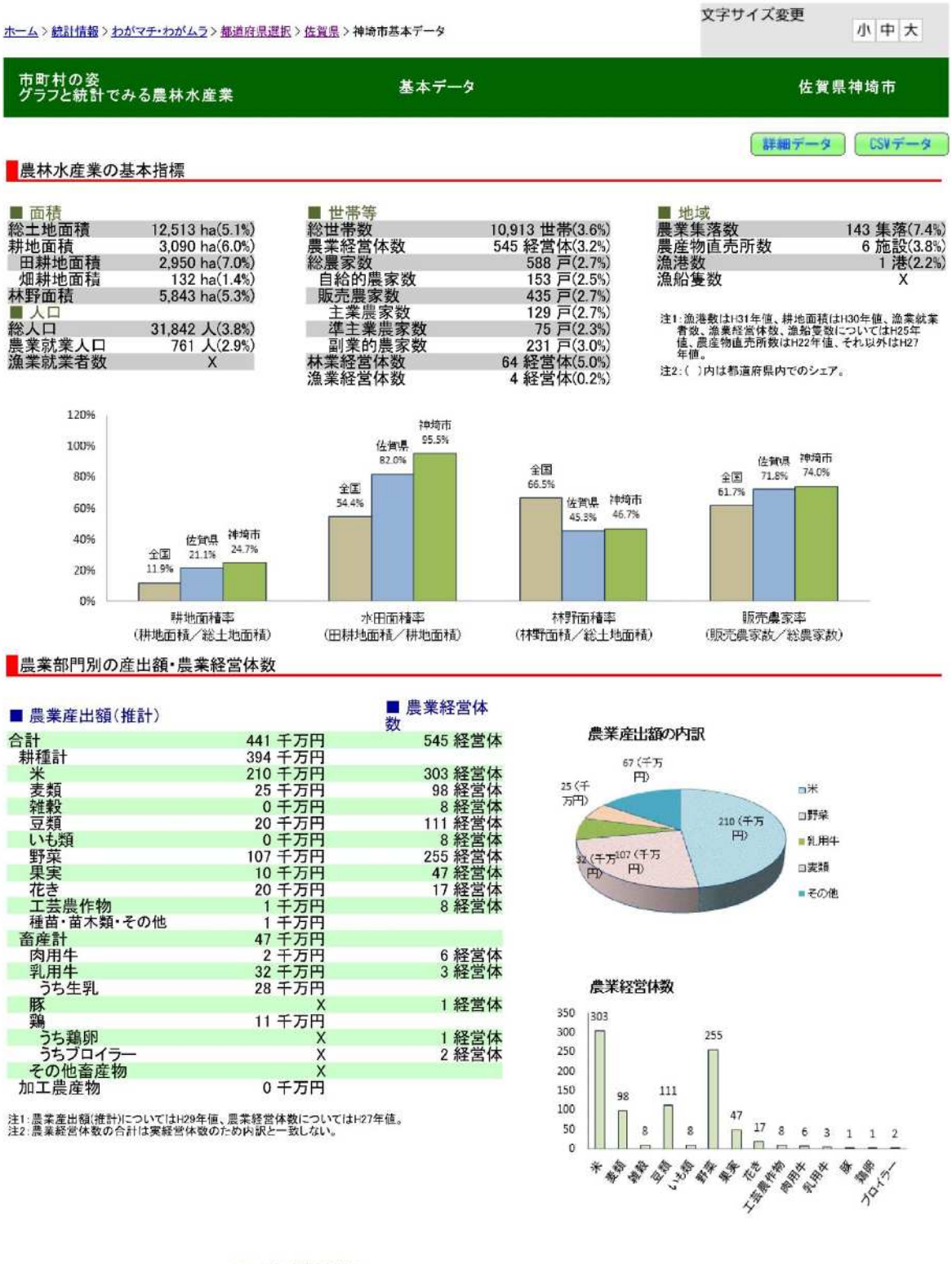

図 7-9　わがマチ・わがムラ ＞ 都道府県選択 ＞ 佐賀県 ＞ 神埼市基本データ

７－２．地域振興における関連上位計画の整理・分析

（１）既存計画（素案）と関連上位計画の抽出

第 2 次神埼市総合計画、第 2 期神埼市総合戦略、神埼市人口ビジョン、神埼市過疎自立促進計画などの上位計画を整理する。対象とした計画一覧及びその連関図を以下に示す。

表 7-1　対象とした計画の一覧

	資料名	策定年月	概要
市全体	第 2 次神埼市総合計画 （H29 市民アンケート調査含む）	平成 30 年 3 月	第1次神埼市総合計画の成果や課題を踏まえた市の総合計画
	新市まちづくり計画	平成 27 年 5 月	神埼地区3町村の総合計画を踏まえたまちづくり計画
	第2期神埼市総合戦略 2020-2024	令和 2 年 3 月	まち・ひと・しごとを創生するための人口ビジョンを踏まえた第 2 期総合戦略
	神埼市人口ビジョン	平成 27 年 9 月	まち・ひと・しごとを創生するための市の人口ビジョン
脊振地区	神埼市過疎自立促進計画	平成 27 年 12 月	過疎地域の現状対する課題分析と今後の見通し
	神埼市脊振町複合施設建設構想	平成 28 年 4 月	脊振町複合施設建設の指針となる基本的な考えを示すもの
	神埼市脊振町複合施設建設基本計画	平成 29 年 3 月	脊振町複合施設の設計及び工事を進める上での根幹となる計画

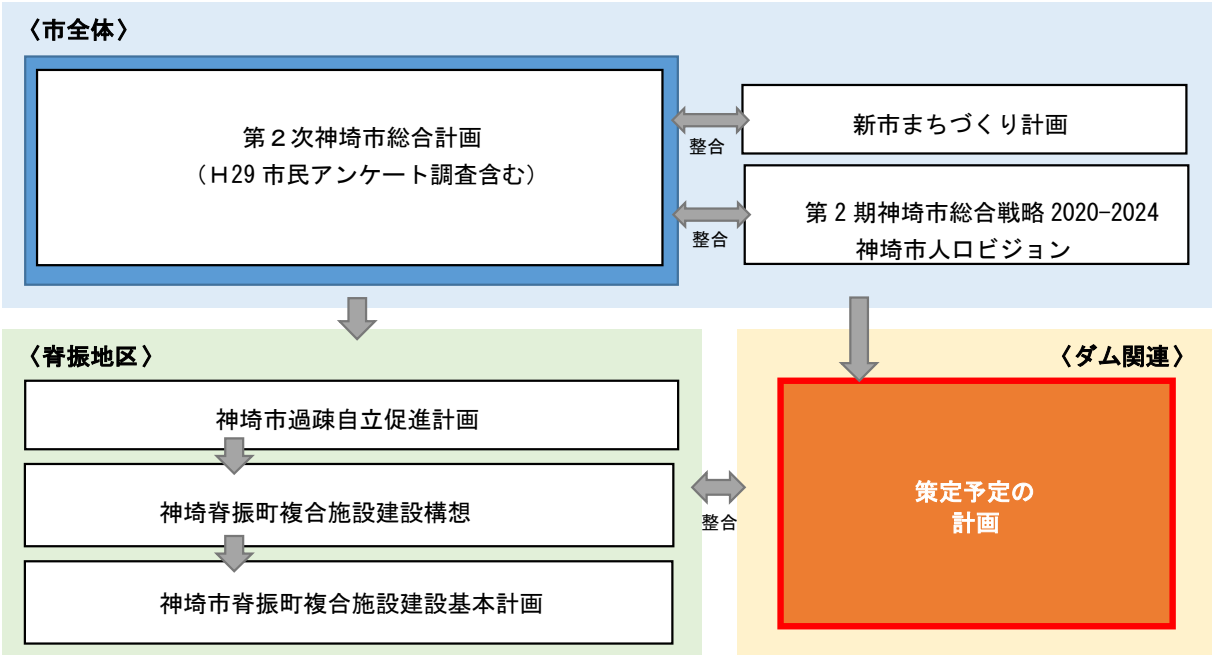

図 7-10　本計画と既往計画との位置付け図

（２）城原川ダム建設予定周辺地域における現状の整理・分析

現状の整理・分析結果を以下に示す。

	現状の整理・分析
人口動態	◆人口 ・人口減少や少子高齢化が進行している。それに伴い、食料品や日用品など生活必需品を提供し、地域交流の場でもあった商店や食堂などが撤退するなど、暮らしの維持に必要な機能が徐々に失われてきている。また、各集落での生活と安全・安心を守る地域コミュニティ機能も、弱体化が進行している。 ◆人口誘致策 ・平成 8 年から取り組んだ宅地造成事業（通称 100 円宅地）では、人口減少に歯止めをかけた。 **⇒地域の特性を生かした産業の振興を図り、さらに企業誘致や空き家対策等の定住施策を積極的に推進し、住民の定住化と永住者の受入れなどを図りながら、暮らしやすい地域づくりのための対策を講じる必要がある。**
産業振興	◆農業 ・平坦な地域がなく、非常に恵まれない立地条件であることから、農業経営は極めて零細であり、しいたけや干柿などを特産品とするには生産量が不足している。 ◆林業 ・外国産材の輸入等により国産材の需要が減少し、木材価格が下がっている。また、林業の振興は、生産基盤である林道の開設、改良、舗装を重点事業として進めている。 **⇒旧脊振村の産業構造は、第一次産業就業人口比率が 26.0%（平成 17 年）と高く、兼業農家が大半となっている。農林業とも後継者不足や兼業化が進んでおり、雇用確保のための施策が必要となっている。**
基盤整備	◆交通 ・他地域の交流や連携を推進するために、市を縦断及び横断するアクセスルートの定義づけを進めている。一方で、地域内では交通の便が不便であるといった意見も挙がっており、高齢化が進行する中で自動車の運転が不可欠な状況となっている。 ◆公共施設 ・脊振町では、脊振町複合施設の建設により、「小さな拠点」づくりが進められている。これにより、市民サービスのワンストップ化、市民への情報提供の場、市民参画の場の創出を目指している。また市民の憩いや賑わいの創出にも貢献し、脊振町の拠点となることを目指している。 **⇒交通基盤の整備による市内や市外の他地域との交流・連携が、人口の流入、産業の活性化、観光振興に寄与することが見込まれている。また脊振町では、地域の核となる拠点をつくる（＝小さな拠点づくり）ことで、より集約的かつ効率的な市民サービスの提供及び市民の満足度向上につながることが期待されている。**
観光振興	◆観光 ・脊振山などの自然や各種観光スポットを有している。 ◆特産品 ・高取山公園に農産物直売所があり、一つの立ち寄りポイントになっている。 ◆イベント ・神埼町の「長崎街道かんざき宿場まつり」、脊振町の「わんぱくまつり」と「ふるさと夏まつり」は、地域の特性を活かした恒例の一大イベントとなっている。 **⇒観光資源やイベントなど、既存の観光振興のための要素が数多く挙げられている。その反面、観光資源の再評価や発掘、また観光振興のための人材育成、集客につながる PR など、観光振興における開拓・改善の余地も大いに残されている。**
その他	◆福祉 ・福祉サービスの提供や福祉施設の設置など、福祉施策の推進が課題となっている。 ◆教育 ・姉妹校都市締結による国際交流事業を推進している。 **⇒少子高齢化が進む当該地域で、高齢者を支援していくための若年層の確保が課題となっている。若年層にとって魅力的な地域となるための教育、医療、福祉などの総合的なサービスの充実が必要となっている。**

参 考 資 料

＜ 計画のとりまとめ（個票）＞

とりまとめた各計画の個表を以下に示す。

計画名	第 2 次神埼市総合計画 （H29 年市民アンケート含む）	計画期間	2018～2027 年 （前期：2018～2022 年、後期：2023～2027 年）

カテゴリ	内　容
人口動態 ・人口 ・雇用 ・人口の誘致策 など	**【現状・課題】** ・脊振地区の過疎化や小中学生の減少に不安を抱いている市民がいる。 **【方針・施策・将来像】** ・掲載なし
産業振興 ・農業 ・林業 など	**【現状・課題】** ・掲載なし **【方針・施策・将来像】** ・概ね長崎自動車道を境に、以北の丘陵地及び山地部は山林主体の山林ゾーン、以南の平野部は水田を主体とした農業・田園ゾーンとする。 ・北部の脊振支所を中心とした地区及び南部の千代田支所を中心とした地区に、それぞれ北部及び南部地域における商業、医療、福祉、コミュニティなどそれぞれの市民の日常生活を支える機能を持った拠点形成を図る。
基盤整備 ・交通 ・公共施設 など	**【現状・課題】** ・脊振地域で通学・コミュニティバスが運行している。 **【方針・施策・将来像】** ・本市を南北に縦断する軸として、城原川に並行する県道三瀬神埼線や県道佐賀外環状線などから構成される軸を地域縦断軸として位置づける。また、市域の東を南北に縦断し、長崎自動車道東脊振 IC を経由して福岡市に至る国道 385 号を広域縦断軸として位置づける。 ・日の隈公園、直鳥クリーク公園、高取山公園など、本市の特色を活かした個性ある公園があり、市民に親しまれているが、安全な利用を確保するために、老朽化等への対応を計画的に行う必要がある。
観光振興 ・観光 ・特産品 ・イベント など	**【現状・課題】** ・市北部に位置する脊振地域は、豊かな自然環境を活かし、自然に親しむ憩いの場としての機能を有している。神埼地域は、都市機能が集積し、中心市街地を形成している。 ・土地利用面積の割合は、脊振町が山林 84.0%、神埼町は農地 45.7%が最も高くなっている。 ・神埼町の「長崎街道かんざき宿場まつり」、脊振町の「わんぱくまつり」と「ふるさと夏まつり」は、地域の特性を活かした恒例の一大イベントとなっている。神埼町においては、まちなかの賑わいの創出と地域の活性化に寄与している。脊振町においても、中学生を主体とした食品の製造・販売を行うなど、地域と関係団体との交流が生まれる機会となっている。 **【方針・施策・将来像】** ・脊振山から筑後川までの多様な自然環境を引き続き地域とともに守り、その豊かな環境資源を再生可能エネルギー等として活用を図り、自然環境の保護と活用のバランスが取れたまちを目指す。
その他 ・医療 ・福祉 ・教育 など	掲載なし

計画名	新市まちづくり計画	計画期間	合併後概ね 15 年間

カテゴリ	内　容
人口動態 ・人口 ・雇用 ・人口の誘致策 など	掲載なし
産業振興 ・農業 ・林業 など	**【現状・課題】** ・掲載なし **【方針・施策・将来像】** ・脊振山系の豊かな森林や、河川などの自然環境の保全を図るとともに、自然との共生に配慮しつつ、ふるさとの山や川が、人々の癒し、交流や体験活動の場として活用されるよう、自然を活かした公園の整備や遊休農地を活用した体験農園、オーナー農園等の仕組みづくりを進める。
基盤整備 ・交通 ・公共施設 など	**【現状・課題】** ・北部の国道 263 号に繋がる県道 21 号（三瀬神埼線）や県道 46 号（中原三瀬線）、県道 51 号（佐賀脊振線）がある。 **【方針・施策・将来像】** ・生活拠点を結び、地域内交流・連携を促進するため、国道 385 号、県道三瀬神埼線、佐賀外環状線等からなる「地域縦断交流軸」を設定する。 ・他市町村との広域的な交流や連携を促進するため、「広域交流軸」として、長崎自動車道、国道 34 号、国道 264 号、国道 385 号、県道の佐賀川久保鳥栖線、佐賀外環状線、佐賀八女線、佐賀脊振線、中原三瀬線、JR 長崎本線等の交通基盤を基に、「佐賀横断広域軸」、「神埼・福岡連携軸」、「北部横断広域軸」、「中北部横断広域軸」、「南部横断広域軸」を設定する。
観光振興 ・観光 ・特産品 ・イベント など	**【現状・課題】** ・脊振山一帯は「脊振千坊」と称され、かつて千年に渡り山岳仏教で名高い土地であったことから、石塔等の痕跡を見ることができ、山伏の修行に由来する火焚き行事「ホンゲンギョウ」などが残っている。 ・脊振北山県立自然公園をはじめとする豊かな自然環境やそれを活かしたさまざまなレクリエーション施設がある。 **【方針・施策・将来像】** ・脊振山系の森林をはじめとする良好な自然環境の保全と活用を行う。 ・森のめぐみゾーン、いやしの里ゾーン、自然体験ゾーンとして整備を進める。
その他 ・医療 ・福祉 ・教育 など	掲載なし

計画名	第２期神埼市総合戦略 2020-2024	計画期間	2020 年度～2024 年度

カテゴリ	内　容
人口動態 ・人口 ・雇用 ・人口の誘致策 など	**【現状・課題】** ・掲載なし **【方針・施策・将来像】** ・中山間地域の魅力を広く情報発信するとともに、特産品の生産、加工などによる雇用の場の創出に向けた体制づくりを支援し、都会からのひとの移住を促進することにより、中山間地域の活性化を図って、魅力ある地域の創生に取り組む。その施策の一つとして、中山間地域の特色を活かした雇用を促進するための体制づくりの支援と移住促進を掲げている。KPI として、UIJ ターン希望者と地域企業のマッチングによる UIJ ターン雇用者数を２人/年とする。
産業振興 ・農業 ・林業 など	**【現状・課題】** ・掲載なし **【方針・施策・将来像】** ・中山間地域の特産品である柿や椎茸などを活かして、雇用の拡大を図るための体制づくりを推進する。KPI として、中山間地域の特色を活かした雇用体制づくりを行う受入支援団体数を令和６年までに１団体/年とする。
基盤整備 ・交通 ・公共施設 など	**【現状・課題】** ・掲載なし **【方針・施策・将来像】** ・人口減少や高齢者の免許保有の増加などにより、地域公共交通の利用者が減少する一方で、車を運転できない人などの増加が今後も見込まれ、移動困難者が利用しやすい、地域の実情（移動の実態等）に合せた身近な移動手段である地域公共交通ネットワークの維持確保をしつつ、地域住民や関係機関と協力、連携して利便性向上に取り組む。その具体的な施策の一つとして、脊振町通学バスの運行を掲げ、KPI として、既存の公共交通機関の確保維持率 100%とする。
観光振興 ・観光 ・特産品 ・イベント など	**【現状・課題】** ・掲載なし **【方針・施策・将来像】** ・王仁博士顕彰公園（神埼町志波屋）などの拠点の活用と新たな拠点づくりにより、交流人口及び関係人口の増加と地域の活性化を図る。KPI として、観光案内の充実、国内外へのプロモーションによる、観光資産の情報発信による観光客数を 120 万人以上/年とする。
その他 ・医療 ・福祉 ・教育 など	掲載なし

計画名	神埼市過疎地域自立促進計画	計画期間	2016 年 4 月～2021 年 3 月

カテゴリ	内　容
人口動態 ・人口 ・雇用 ・人口の誘致策 など	**【現状・課題】** ・旧脊振町の人口：1,657 人、世帯数：683 戸（平成 27 年３月末） ・高齢者比率は 33.6%（平成 22 年） ・人口減少が進んでいたが、平成 8 年から取り組んだ宅地造成事業により、242 名の入居があり、人口減少に歯止めをかけた。 **【方針・施策・将来像】** ・地域の特性を生かした産業の振興を図り、さらに企業誘致や空き家対策等の定住施策を積極的に推進し、住民の定住化と永住者の受入れなどを図りながら、暮らしやすい地域づくりのための対策を講じる。
産業振興 ・農業 ・林業 など	**【現状・課題】** ・旧脊振村は、市の産業構造と比べて第一次産業就業人口比率が高く、兼業農家が大半となっている。農林業とも後継者不足や兼業化が進んでおり、雇用の場の確保が課題である。 ・平坦な地域がなく、非常に恵まれない立地条件であることから、農業経営は極めて零細で、生産性は他地域に比較し低い。農業基盤整備として、圃場整備事業の実施により工作機械の導入が可能となり、省力化や地域農業の生産性向上が図られるなど、成果を上げている。 ・林業では、外国産材の輸入等による国産材の需要減少により、価格が下がっている。また、林業振興は、生産基盤である林道の開設、改良、舗装を重点事業として進めている。 ・旧脊振村の産業は、米、野菜、シイタケ、干柿及び林業等を主とする複合経営の農林業が中心である。 ・シイタケについては、JA 椎茸部会において乾燥機械の購入を行い、生産性の向上、販路の拡大、品質及び所得の安定に対する取り組みが図られている。干柿、こんにゃくについては、原料が不足し、旧脊振村外から調達している現状であり、安定的出荷のために原材料の確保が課題である。 **【方針・施策・将来像】** ・産業基盤である市道、農林道の整備や圃場整備等を実施し省力化を図り、集落営農を推進する。 ・生産性の安定向上に努めるとともに、佐賀、福岡都市圏に隣接した立地特性を生かした、都市近郊型農業を推進し、安全で新鮮な農産物を提供するなど、収益性の高い農業の発展が期待される。 ・林業の振興については、生産基盤である林道の開設、改良、舗装を重点事業として進めているが、今後は生産基盤整備と併せ、間伐を実施し優良材生産を推進していく。 ・高齢化・担い手不足が進む中、高齢者の生きがい対策や近年の余暇増大と併せ、農地流動化の推進により遊休農地等の有効活用を行い、中山間地農業の振興を図る。また、干柿生産を含め、冬場の農業収入をいかに確保していくことも課題であり、地場産業の育成強化と自然環境にやさしい企業誘致の推進を図っていく。 ・住民の雇用の場の確保及び産業振興対策として平成 5 年度に自動車及び弱電関連企業、平成 9 年度に乳製品加工工場、平成 10 年度に花き種苗センターの誘致を見たものの、現状としては、まだ住民の多くが旧脊振村外へと働きに行かざるを得ない状況である。そのため、地元の雇用の場を創出し、雇用増大と人口増加を図るため、自然環境にあった公害のない企業誘致を進めていくことが重要である。
基盤整備 ・交通 ・公共施設 など	**【現状・課題】** ・基幹的道路網の整備は、改良率 68.4%、舗装率 88.6%（平成 26 年度末）となっている。 ・CATV の共用開始や地上デジタル放送及びブロードバンド環境が整備されている。一方で、防災行政無線移動局においては、デジタル化が進んでおらず、防災に関する情報体系の整備が必要となっている。 ・これまで「住んでいてよかったと言える夢のある地域づくり」を目指し、宅地造成事業をはじめ、高取山公園整備事業、幹線道路等の改良・舗装、産業の振興、高齢者の

	福祉事業、医療の確保、通学バスの運行、宿泊施設の建設等対策を講じている。 【方針・施策・将来像】 ・掲載なし
観光振興 ・観光 ・特産品 ・イベント など	**【現状・課題】** ・地域の特性を生かした地場産業に対する取り組みは、地域間競争が激しくなる中で、旧脊振村でもシイタケ、干柿、こんにゃく等を特産品としての振興が図られている。 ・地場産業育成強化を図るため、農林産物の 1．5 次化及び生産基盤の確立のため調査・研究等を実施している。こんにゃくは、旧脊振村内加工業者が主体となり生産から流通までの一貫した振興に力を注いでいる。 ・平成 10 年 5 月に旧脊振村農産物出荷部会を組織し、旧脊振村外からの会員募集も行い、旧脊振村内外イベント等にも積極的に参加するとともに、幅広く宣伝活動を行い、農産物加工・販売の振興を図っている。 ・脊振山(1,055m) は、自然景観、渓谷、高山植物群等に恵まれ、また脊振山脈を横断する九州自然歩道の整備もあり、県内外を問わずレジャー観光の場として親しまれており、年間約 33 千人の観光客が訪れている。また、旧脊振村の中心部にある高取山公園「わんぱく王国・そよかぜの丘」は、自然を生かした公園として親しまれ、各種イベントを開催しながら県内外から年間約 79 千人の観光客が訪れるなど、都市との交流及び癒しの場や都市部への情報発信の拠点となっている。 ・脊振山を源流として旧脊振村中心部を流れる城原川は、緑と清流に囲まれ、四季を通じ散策の行動拠点として親しまれ、訪れる人々にやすらぎとくつろぎを与えている。 ・旧脊振村内には他にも自然的条件を備えた観光資源が数多くあり、それら観光資源の再評価と新たな親光資源の発掘を行いながら地域の PR と集客を図ることが課題である。 **【方針・施策・将来像】** ・農産物直売所のさらなる充実を図ると共に、都市住民を対象としたイベント等の実施を行い、年間を通じた利用者の確保を図る。また、福岡県境にそびえる脊振山は、眺望にすぐれ、ブナの原生林、高山植物の自生、日本茶発祥の地など自然や歴史的資源を有しており、森林浴や自然景観を親しむ利用者が多く、駐車場や休憩所、展望所、登山道などの整備を充実させる必要がある。 ・今後、余暇需要の増大や多様なニーズにより自然への欲求はさらに高まるものと思われる。福岡市、佐賀市近郊という地理的特性を生かし、ゆとりとやすらぎを享受できる自然環境と調和した施設の充実整備及び都市との交流を図り、自然豊かな観光資源を有効活用することが重要である。また、新たな観光資源の発掘も重要である。 ・自然の親光資源に恵まれた脊振山を中心に景観を生かし、特性を強調・演出しながら、福岡市・佐賀市近郊という地理的な条件を生かし、自然環境と調和した観光施設の整備拡充を図る。 ・高取山公園「わんぱく王国・そよかぜの丘」の整備拡充は、すでに整備した施設との調整を図りながら、自然環境との調和のとれた施設やスポーツ、レクリエーション施設等を整備し、住民相互の憩いの場及び 1 日脊振村民と都市住民との交流の場として総合的な整備充実を図る。 ・地域における伝統文化やイベント行事の開催等において、活力が低下している。これらの継承や活用が今後必要になってくると思われる。また、後継者不足は大きな問題であり、人口の減少や少子高齢化に拍車がかかり重要な課題となっている。これと併せ、地域の核となる人材が少ないため、人材を広く発掘し、指導者を育成していくことが必要である。また、地域の素晴らしい自然を後世により良い状態で残すため、地球環境・地域環境に対する配慮が必要である。 ・神埼市過疎地域自立促進基金を創設する。
その他 ・医療 ・福祉 ・教育 など	**【現状・課題】** ・姉妹校都市締結による国際交流事業を推進している。 **【方針・施策・将来像】** ・掲載なし

計画名	神埼市脊振町複合施設建設構想	計画期間	2016 年 4 月

カテゴリ	内　容
人口動態 ・人口 ・雇用 ・人口の誘致策 など	**【現状・課題】** ・昭和 35 年に 3,937 人であった人口が、50 年後の平成 22 年には 1,776 人と 50%を超える人口減少率となっている。また、平成 22 年の年齢構成別の人口比率は、14 歳以下の年少人口が 12.1%、65 歳以上の老年人口が 33.6%となっており、人口減少を伴った少子高齢化の進行が顕著となっている。 ・人口減少や高齢化に伴い、食料品や日用品など生活必需品を提供し、地域交流の場でもあった商店や食堂などが撤退するなど、暮らしの維持に必要な機能が徐々に失われてきている。また、各集落での生活と安全・安心を守る地域コミュニティ機能も、弱体化が進行している。こうした状況を打開するため、旧脊振村及び神埼市において実施した過疎対策事業のふるさと定住宅地造成事業（通称 100 円宅地）は、人口減少や少子高齢化の進行を抑える一定の成果を上げている。しかしながら、ふるさと定住宅地造成事業を実施した脊振町の中心である広滝地区においては、人口減少に一定の歯止めをかけたものの、その他の地区では、変わらず少子高齢化が顕著となっている。 **【方針・施策・将来像】** ・掲載なし
産業振興 ・農業 ・林業 など	掲載なし
基盤整備 ・交通 ・公共施設 など	**【現状・課題】** ・脊振支所における庁舎の老朽化、防災対策の拠点として耐震性への不安やバリアフリー化への未対応など、様々な問題を抱えている。また、住民の健康を増進する目的で活用している脊振公民館、診療所及び脊振 2000 年館（市立図書館脊振分館）といった公共施設も、同様の問題を抱えている。 **【方針・施策・将来像】** ・脊振町複合施設の建設により、いわゆる「小さな拠点」づくりの核となる施設の役割を担い、市民サービスのワンストップ化はもとより、市民への情報提供の場、市民参画の場の創出を目指す。また周辺環境に配慮した景観の整備や市民の憩いの場の創出、また、機能空間の連携や市民活動の支援などにより、賑わいの創出に貢献し、脊振町の拠点となる施設を目指す。 ・脊振町複合施設は、防災・行政機能、生涯学習センター・災害時避難所機能、健康医療機能、学習機能が位置づけられている。
観光振興 ・観光 ・特産品 ・イベント など	掲載なし
その他 ・医療 ・福祉 ・教育 など	掲載なし

計画名	神埼市脊振町複合施設建設基本計画	計画期間	2016～2020 年

カテゴリ	内　容
人口動態 ・人口 ・雇用 ・人口の誘致策 など	掲載なし
産業振興 ・農業 ・林業 など	掲載なし
基盤整備 ・交通 ・公共施設 など	**【現状・課題】** ・アンケート調査では、診療所の跡地を住宅として利用してほしいが最も多く、次いで公園・広場、駐車場と続いている。また、脊振 2000 年館の跡地としては、駐車場が最も多く、次いで公園・広場、学校施設と続いている。 **【方針・施策・将来像】** ・現施設の問題点に対して、少子高齢化や過疎化によるまちづくりの活力低下といった最中、財政への負担軽減を図りながら合理的かつ効率的に解決するためには、老朽化や耐震強度不足などの問題がある施設を「集約化」し、複合施設として整備することが有効であるといえる。また、基本構想では、脊振町複合施設建設において、地域再生の役割を担う脊振町の拠点となる「小さな拠点」づくり等を検討することが位置付けられている。支所、公民館、診療所、図書館などを 1 ヶ所にまとめることで横断的に利用され、コミュニティスペースや活動空間の利用を通して交流や活動が行われることで、最大の効果が発揮されることを目指す。
観光振興 ・観光 ・特産品 ・イベント など	**【現状・課題】** ・掲載なし **【方針・施策・将来像】** ・複合施設は市民交流機能の整備を目指している。目的が無くても気軽に立ち寄れる居心地の良い施設、交流、休憩、待合の場として賑わいの創出を図れる空間、小規模イベントや音楽会、展示などを行うことができる。また、様々な用途に対応可能なホールや広場、ギャラリーや展示コーナーなどの情報発信機能を備え、地域活性化の拠点づくりを目指す。
その他 ・医療 ・福祉 ・教育 など	掲載なし

7－3．住民WS等の結果とりまとめ

7－3－1.水源地域の魅力と課題の整理

・第1回・第2回住民WS等を踏まえ、水源地域の魅力と課題を整理した。なお、同様の意見については一部集約している。また、神埼市、脊振地区の現況と課題を整理結果の後に示す。

（1）水源地域の魅力及び魅力を活用する工夫

表 7-2：水源地域の魅力と魅力を活用する工夫（1）

大分類	中分類	水源地域の魅力	魅力を活用する工夫	まとめ
自然・景観	自然環境	・脊振山系の自然環境、緑多き自然 ・脊振の自然を大切にする ・自然が美しい（ダム上流域） ・四季が感じられる自然 ・仁比山地区の自然観光等 ・”森林”資源をはじめとして、”水”や”空気”など全体的に自然が良い	・自然と触れ合える公園の整備 ・四季の移り変わりの活用 ・自然が魅力⇔災害が多い（脊振で災害が生じる場所は、実は自然の魅力が高い場所である） ・自然を活かして災害に強い地域づくり	・魅力として脊振山系、脊振全体、仁比山地区の自然環境などが上げられ、四季を感じられる魅力が上げられる。 ・構成要素は、森林資源や、水、空気など ・活用の工夫は、それらを活かした環境整備などが上げられる一方、災害対策などが上げられる。
	森林・植生	・上流の桜街道、もみじ、シャクナゲ、菜の花の景色 ・薬草もより多く自生している ・森林資源が豊かである ・脊振の森林を大切にしている気持ちは今後も重要である	・ドウダンツツジ（脊振山頂部）の保全 ・桜街道 ・自然を活かしたまちづくり（しゃくなげ（昔は自生していた）など、その土地の自然を育てる（自生植物など）） ・森林整備・保全”自然体験(登山や川遊び)、森林浴 ・自然の中で遊べるアスレチック施設（フォレストアドベンチャー） ・林業の再活性化・復旧（杉・檜） ・廃材の活用（廃材の木チップを使った火力発電、その電気を売るという事例が他地域にある。体験学習などで間伐をした場合は、その廃材を同じように使えるのでは?）	・魅力的な植生として、「桜街道（さくら）」、「もみじ」、「シャクナゲ」、「菜の花」、「薬草」など ・活用の工夫として、その土地の自然の保全に加え、森林環境を楽しむ自然体験、森林浴、体験施設の整備に加え、森林業としての再活性化・復旧（杉・檜）、間伐材や廃材などを活用した発電・売電などが上げられる。
	河川・水	・水資源が豊かである ・水がきれい（地下水利用・花崗岩） ・川の水が綺麗、川や水など自然が心を癒す ・山林が多く水資源を維持	・清流環境の活用（清流使ってわさびの栽培） ・水力発電の活用（小水力発電・エネルギー対策） ・水車による水力発電を行う（観光ではなく実用的な施設として）→SDGｓにも関連した取り組みになる ・水力発電 ・地下水は神埼市の歴史・文化を築いてきた重要な資源である	・魅力として、水資源の豊さ、水質、水源林などが上げられる。 ・活用の工夫として、清流環境の活用（清流使ってわさびの栽培）、持続的なエネルギー活用などが上げられる。
	畑・土壌（農地）	・土壌が良い（農地にとって） ・季節で色彩変わる段々畑	・余った畑地などを貸農園としての活用、貸し農園 ・体験学習	・魅力として、土壌や畑の景観が上げられる。 ・活用の工夫はとして、貸農園などの体験学習が上げられる。
	空気	・空気がきれい	―	―
	景観	・昔ながらの日本の風景や人が脊振地区にある ・豊かな自然による景観 ・静かな環境（何もないことが逆に魅力的）、癒しの場	―	・魅力としては、昔ながらの原風景、癒しの場などが上げられる。 ・活用の工夫としての意見は無し。
	生物	―	・清流に住む魚の保全（サンショウオ） ・ホタルの生息環境の保全（アシ・カワニナ（ホタルが生息していた場所））	・魅力として生物は上げられなかった。 ・活用の工夫として、住む魚の保全（サンショウオ）、ホタルの生息環境の保全が上げられる。
歴史・文化	歴史資源	・九年庵、仁比山神社 ・広滝第一発電所（レンガの水力発電所） ・城原川の三段滝 ・山頂・水の神・滝ノ池、三大明神 ・扇のかなめ・仁比山神社・八天神社・原風景 ・脊振神社・宗像、伊東玄朴 ・めがね橋 ・政所など歴史ある土地 ・野越しの意義 ・栄西禅師の歴史は古くこの歴史をもう少し広めたい ・神埼や脊振にはこれまでの歴史・文化的な地形や施設が各地に残っている	・個別資源の活用（広滝神社、脊振山頂、眼鏡橋、脊振の白蛇（脊振神社）） ・日本一の石の門、水力発電＋水路石積 ・歴史を活かした町づくり（後鳥羽上皇、鳥羽院） ・パワースポットとしての売り出し ・ダム水源地域及び上流域の歴史をまとめる ・資源の活かし方を学ぶ、勉強会の開催 ・歴史資源としてもっとPRするべき（脊振神社を観光資源、鳥羽院の文化財、栄西の碑を知ってもらう） ・神埼市の歴史を語れるような一つの物語を作って、地域の魅力をPRする材料とする（各歴史資源には物語がある） ・栄西禅師の歴史は古くこの歴史をもう少し広めたい（東脊振に負けないように） ・観光地のＰＲ	・魅力として、九年庵、仁比山神社など地域を代表する歴史資源にお茶、水に関する歴史資源などが上げられている。また、政所や野越などの土地や治水に関する資源もあげられている。 ・活用の工夫として、個別資源の活用方法、水や治水文化、歴史を活かしたまちづくりなどが上げられる。 ・また、資源の結びつき、ＰＲとして、歴史の取りまとめ、活かし方を学ぶ（勉強会）、物語の構築、情報発信（ＰＲ）などが上げられる。
	文化（行催事等）	・宝光寺・山寺のひな祭り ・かかし祭り	・森林公園の中の茶室を作れば脊振の自然を感じつつ歴史を知ることができる ・茶室・魅力を広める	・魅力としては、具体の行催事が上げられている。 ・活用の工夫としては、九年庵の茶室を模して、茶室の魅力、自然とのつながりの意見が上げられる

表 7-3：水源地域の魅力と魅力を活用する工夫（2）

大分類	中分類	水源地域の魅力	魅力を活用する工夫	まとめ
観光	観光資源	・仁比山のもみじの湯 ・水車	＜歴史資源活用・コース整備＞ ・歴史の繋がりコースを作る。脊振→神埼→千代田 ・めがね橋から城原川沿いを歩くための遊歩道整備が必要。ただし、管理者がいないことが難しい ・仁比山の歴史資源を活用した上流域へのつなげ方 ・観光資源として、水車をならべる ・水車の再整備（観光）、水車の小電力 ＜体験活動・野外活動＞ ・高取山ドックランで利用客増加 ・地域住民による昔の遊びの提供（自然遊びの経験が得られる・都会では体験できない場を提供できる） ・挙がった地域の魅力を活用し、自然をフィールドとした「体験型観光の拠点」として整備が可能では ・スノーピークと提携してキャンプ場を開設・運営する ・以前、「屋根のない美術館」を建築するという計画があったが、それを市民の憩いの場もしくは市外からの集客のきっかけとなる資源として実現してほしい ・山の地形を活用したアウトドア（マウンテンバイク） ＜魅力ある観光資源の整備＞ ・小電力を使ったイルミネーション・ライトアップ ・木造の音楽ドーム作りたい ・図書館・博物館"漫画の多い図書館（漫画が多いと多くの人が集うのではないかという考え）" ・ダムの上に「夢のかけ橋」という大きな橋を架けて観光地とする（岩屋～井上製麺くらいまで） ＜全般＞ ・子供を集めるための方法 ・近場に人が寄るスポットをつくる	・魅力として、仁比山のもみじの湯や水車など、個別の資源が上げられている。 ・活用の工夫としては下記の意見が上げられている。 ・上述された歴史資源を結びつけたコースの整備 ・水車の活用（水資源） ・体験活動（昔の遊び、自然フィールド、キャンプ場の整備）、アウトドア） ・自然環境を活用した美術・音楽 ・図書館・博物館"漫画の多い図書館 ・ダムの上に「夢のかけ橋」の整備 ・また、これらの取組により、交流人口の拡大を図る。
	交流人口	ー	・交流人口を増やす	
食事	特産品	・そうめん、岩屋うどん ・脊振独自の特産品（そうめんなど）、ジビエ（獣肉） ・地元にいると当たり前なので、外の目がないと魅力だとは気付かない	・地域ブランドの確立（井上製麺を地域ブランド）	・魅力として、特産品では、乾麺（そうめん、うどん）、ジビエ、農作物では、脊振を代表するお米、柿、こんにゃく、シイタケ、野菜類が上げられる。 ・活用の工夫としては、地域ブランドの確立（井上製麺、水車を活用した水車米、伽羅（きゃら）柿などが上げられる。
	農作物	・お米、柿、こんにゃく、シイタケ、野菜類等 ・脊振の特産物を大切にしている姿勢が重要である	・小渕　水車の里・振興会では水車を使って玄米を精米。水車を整備してその回数を増やす ・伽羅（きゃら）柿など、在来品種の活用	
道路・交通		・市街地に近いダム、交通の便が良い、道路網が良い ・福岡市内へのアクセスが良い	・道路の整備（トンネル開通、便利な道路、利便性をよくする、広い道路整備） ・観光タクシー・デマンド交通にて神埼市から水源地域への周遊観光	・魅力、及び活用の工夫としては、市街地から近いダムとしての利便性の向上、周遊観光を図るための観光タクシーなどの交通整備などが上げられる。
生活環境	住環境	・治安が良い	・１００円宅地を広めて移住者を募る ・脊振に大きな病院を作る	・魅力として、治安の良さが上げられる、 ・活用の工夫として、課題にも上げている、移住者対策、病院整備などが上げられる。
	コミュニティ	・人や地域のつながりが強い ・人情が豊か、人との関わり合いがスムーズ ・地域の人を良く知っている ・住民の人間性が良い ・地域でしっかり子供たち１人１人の事を知って寄り添い見守っている ・子供たち素直 ・当初からの脊振の居住者の歴史的感覚と移住者の新たな考え方を融合したコミュニティの形成により、面白いことが出来るかも！	＜人・組織＞ ・組織強化(担い手) ・人なつっこさ ＜教育＞ ・脊振ならではの自然や歴史を活かした特色や魅力ある学校教育を行えばよい （来年度からの動きとして、現在、教育委員会が準備を進めている学区を超えて児童が就業できる制度あり→小規模特認校） ・脊振で育っている子どもたちは本当に素直であるから、自然の良さを市内の子供達に伝える ・地域住民による昔の遊びの提供	・魅力として、人や地域とのつながり、人間性の良さ、子どもたち素直などが上げられる。 ・活用の工夫として、それらを活用した組織強化（担い手）、子どもたちを通じた情報発信、脊振ならではの自然や歴史を活かした特色や魅力ある学校教育などが上げられる。
エネルギー		・エネルギー資源が豊富、バイオマス（潜在的供給力：薪）、小水力・発電	・廃材の活用（廃材の木チップを使った火力発電、その電気を売るという事例が他地域にある。体験学習などで間伐をした場合は、その廃材を同じように使えるのでは？）	・魅力として、エネルギー資源（バイオマス、小水力）などが上げられる。 ・活用の工夫として、廃材の活用など自然資源の活用が上げられる。
情報		ー	＜福岡など都心に対する情報発信＞ ・FMを使った情報発信 ・案内看板の設置 ＜神埼市内に対する情報発信・共有＞ ・城原川の水源地における情報共有（軸は城原川となる） ・神埼市全体での情報共有。ほこり ・浸水地域の方は先例地見学など実施。浸水地域だけでなく、上流、神埼市内に対する情報発信が必要 ・発信力の強化	・魅力としての、意見は上げられていない ・活用の工夫として、福岡など都心に対する情報発信（FM、案内看板）、神埼市内に対する情報発信・共有（水源地、城原川を軸とした）や、上流、神埼市内に対する、ダム整備等の情報発信が上げられる。

（2）水源地域の課題及び課題を解決するための方法（城原川ダム周辺地域及び上流域の課題）

表 7-4：水源地域の課題と課題を解決するための方法（1）

大分類	中分類	水源地域の課題	課題を解決するための方法	まとめ
道路・交通	道路	・道路の幅員が狭い ・幅員の確保（現状も工事が多く通行しづらい） ・工事用道路の位置 ・車が多い・トラックなどが通ると歩道が無いので危ない ・道路は学生通学路を兼ねており、道路が狭く危険である ・道路改善の要求を行っているが進展がなく、安全を考えるとダム建設まで待てない ・災害土地の整備が遅い（ダムの為のいろいろはあっている） ・地形が悪い（農業・道路に影響） ・道路条件が悪い ・道路が１本であり、災害、工事、事故発生時に地域の孤立や渋滞の発生などが想定される ・ダム工事に伴う道路（生活道路）の対応はどうなるのか ・付替道路の線形、新たな道路整備 ・子供の通学時の騒音問題（工事用車両）	＜生活道路＞ ・大型バス、トラックが通行できる広い道路の整備 ・安全対策・工事用道路の拡幅、道路整備 ・道路の幅員が狭い、観光しやすい、歩きやすい、通りたいと思えるような幅員がほしい ・街へのアクセス改善 ・市内外からのアクセスが良くなるように道路の整備を進める ・脊振に来やすいよう南北の幹線道路を整備する ・周辺からのアクセス路の整備 ・脊振に来やすいよう南北の幹線道路を整備する ・市が縦長のため、周辺からのアクセス路の整備 ＜観光道路＞ ・登山鉄道などの観光資源を創造する ・周辺地域から人を集める工夫が必要 ・ヘリポート場をつくってはどうか ・ロープウェイ、モノレール(遊び心のあるアクセス）道路より安価に整備できるのでは ・高取山にケーブルカーを設置して、ダムと行き来できるようにする	・課題として、道路（県道21号線）の幅員が狭い、歩道が無いことによる危険性に加え、工事車両による危険性や、地形や道路条件の悪さなどが上げられる。 ・課題の解決方法として、生活道路としては、安全対策・工事用道路の拡幅、道路整備、市内外のアクセス（南北の幹線道路、周辺からのアクセス路）の整備が上げられる。 ・また、観光道路として、ロープウェイ、モノレール、ケーブルカーなど遊び心のあるアクセスに加え、ヘリポート場などの安全対策もあげられる。
	交通	・交通の便が悪い、交通アクセスが不便 ・高齢になった際、交通に不便 ・路線バスの廃止（ますますダムの上流域と下流域で町の賑わいの差が大きくなる） ・車が無いと買い物できない（特に高齢者には困難） ・買物に行くのが不便である ・車が無いと遊びに行けない	・公共交通等の情報共有 ・街へのアクセス改善 ・若者が住めるように、仕事のある中心市街までのアクセスをよくする必要がある	・課題として、交通アクセスが不便（高齢者対応、路線バスの廃止、買物難民）などが上げられる。 ・課題の解決方法として、アクセス性の向上（中心街）や、公共交通の情報共有などが上げられる。
食料や日常の買い物	買物	・買い物など日常生活で不便な事が多い ・買い物に困る（脊振地区唯一の商店も閉店） ・周辺に店が無く買い物ができない ・買い物は宅配か車で移動しないと対応できない	＜日常の買い物・食事（店舗整備）＞ ・商業施設も入った複合庁舎を整備する（買物機能追加・背振地区唯一の商店も閉店） ・新複合施設に飲食店を ・観光客がきても飲食や買い物ができる場所がないため、地域内で導入できる場所に店を入れてはどうか ・コンビニ欲しい（※24時間でなくてよい、ファミマは過疎地に協力的（過疎地によく出店している） ＜宅配・仕組み整備＞ ・近い将来ドローンで買い物できる時代が来るかも ・ドローンタクシーを使って買い物（ドローンで宅配）↑短時間&安いものを！ ・路線バスのトランクに品物を積んで配達・販売するのはどう？ ＜全般＞ ・交通や買い物などにおいて利便性ある街にする ・お店を増やす（若い人が好む施設を中心）	・課題として、商店が無く買い物に困る、買物難民（車で移動できない）などが上げられる。 ・課題の解決方法として、商業施設の整備（複合庁舎の活用（買物機能追加・背振地区唯一の商店も閉店）、コンビニ等の誘致に加え、商店が無いことによる、宅配・配送サービスの仕組み整備（移動売店、ドローンの活用）などが上げられる。
	食事・特産品	・脊振町内で飲食できる店が少ない（2件）	・特産品を収集する仕組みの構築（高齢化のため出品が難しい） ・生産人口が少ないことが課題、移住者等に対する農家への転換支援 ・伽羅（きゃら）柿など、在来品種の活用	・課題として、飲食店が少ないことが上げられる。 ・課題の解決方法として、飲食店については特に上げられていないものの、特産品の販売に伴う集荷サービス、生産者の確保、在来品種の活用などが上げられる。
観光	観光資源	―	・流水型ダムを活用した上流域に対する親水公園（湖面が出来ない代わりに河川はある） ・レトロなバス（観光資源として） ・獣害であるイノシシやサルを観光資源の一つと捉え、イノシシ園を作り、観光資源として位置づけたり、イノシシカレー・鍋などを振る舞ったりするなど、申年やいのしし年の12年に1度のイベントとして開催する ・公共施設、宿泊施設の充実 ・登山鉄道などの観光資源を創造する	・課題は上げられてない。 ・課題の解決方法として、観光振興を図る方策が上げらており、流水型ダムを活用した上流域に対する親水公園、獣害の動物の観光資源としての活用、鉄道整備などが上げられる。
生活環境	産業・就労	・農業用水の確保（水量ｔ） ・農地と農業後継者（倉谷柿の生産者も減少） ・下流水田に対して水資源の利用料金が発生するようになるのか ・企業が少ない、町内就労の場の確保	・農業の用水の確保 ＜雇用・企業誘致＞ ・雇用を増やす ・雇用の場や店を増加させることで、昼間の人口を増加させる ・自然の中で仕事をすることも魅力的である=企業誘致、昼間人口を増やす ・水資源を活用する企業など（過去にサントリー誘致の可能性があった）	・課題として、農業用水の確保、産業の確立が上げられる。 ・課題の解決方法として、農業用紙の確保や、雇用を増やす方法として企業誘致、水資源の活用、自然の中での仕事環境の確立などが上げられる。
	公園・遊べる場所	・公園少ない ・子供から大人を含め、町内で遊べる場所が少ない	―	・課題として、町内など町内で遊べる場所が少ないことが上げられる。

表 7-5：水源地域の課題と課題を解決するための方法（2）

大分類	中分類	水源地域の課題	課題を解決するための方法	まとめ
生活環境	コミュニティ	・若い人が自由に意見を言う環境が乏しい ・周辺地域と連携する必要がある。隣り合う地域ではなくても良い。三瀬なども面白いことを始めている。	・集落の情報共有 ・コミュニティの形成 ・中・高校生だけ（若者）のグループで話し合いの場を設ければ、若者も意見を出しやすいのではないか（WSに若者が少ない）ダムの情報が市民に届いていない。市の情報が市民に届き、市民の意見も市に届くような風通しの良い体制が望まれる。 ・上記の若者だけのグループ例として、西九州大学の学生グループを作って同様にWSをしてはどうか	・課題として、意見を発現する環境が乏しい、周辺地域との連携が上げられる。 ・課題の解決方法として、集落内での情報共有、コミュニティ形成に加え、市民の意見が市に届くような（特に若い方の）体制が求められる。
	獣害	・害獣対策 ・イノシシ・アナグマなどの農作物被害 ・流水ダムは水を貯めず管理もできない為、イノシシ等が集まる	・獣害であるイノシシやサルを観光資源の一つと捉え、イノシシ園を作り、観光資源として位置づけたり、イノシシカレー・鍋などを振る舞ったりするなど、申年やいのしし年の12年に1度のイベントとして開催する ・害獣の繁栄阻止	・課題として、イノシシ・アナグマなどの農作物被害、流水ダムによる荒廃地での対策が上げられる。 ・課題の解決方法として、観光資源としての活用などが上げられる。
	防災・災害	・自然災害への不安 ・ダム整備後に河畔の崩落や土砂崩れが起こらないか心配 ・地域が危険地帯に指定（土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）。崖が多いので怖い ・花崗岩地質のため、土砂災害が不安 ・山林の荒廃・竹林 ・ダム下流の安全・脊振の土砂災害 ・下流の堤体の補強 ・流水ダムによって本当に治水ができるのかが分からない ・大雨時下流の水の流れがかわるのか	―	・課題として、自然災害への不安、ダム整備後の河畔の崩落や土砂崩れ、地域が危険地帯に指定（土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）などが上げられる。
少子高齢化	人口減少	・急激な人口減少 ・後継者がいない（夫婦のみや、1世帯が多い） ・居住者も出てしまっては困る、対策はどうしたらよいか ・ダム建設は過疎を促進させるという住民意識が根底にある ・ダム建設が過疎化対策になるかどうか疑問 ・担手不足 ・若い人が少ない ・人が居なく活気が少ない ・今後の脊振町内の人口減が心配である ・脊振町全体の人口減少を少しでも抑えること	＜移住・定住促進＞ ・地元出身の人を都会から呼び戻す ・100円宅地・若い人の受入れ ・移住者の受入れ ・移住・定住を促進するための宅地をつくる ・ダム周辺の宅地造成、人口減を避けるため集団移転先を地域内に計画する ・ネット基地局を作り、IT企業の進出やネット通信を駆使した在宅勤務が可能な環境を作る、定住したくなる街にする ・静かな環境を活かし、都会でなくても働ける仕事（ＩＴなど）の環境整備 ・脊振≠遠い山の中という概念を払拭させる、移住したくなる街にする ・芸術村 ＜交流＞ ・他地域（都市部や田舎）との交流・意見交換 ・他地域の取り組みや居住している若い人の意見をヒアリングし、背振の地域振興に活かす	・課題として、急激な人口減少、担い手不足、活気が少ないことが上げられる。 ・課題の解決方法として、移住・定住促進としては、100円宅地・若い人の受入れに加え、移住・定住を促進するための宅地整備、集団地点地を地域内に計画することに加え、ネット基地局を作り、在宅勤務が可能な環境（静かな環境）を整備し、都会でなくても働ける仕事（ＩＴなど）の環境整備が上げられる。
	空き家	・空家が多い	・空家の活用	・課題及び解決方法として、空き家の活用が上げられる。
	学校教育	・脊振ならではの自然や歴史を活かした特色や魅力ある学校教育を行えばよい ・少子化による学校のあり方・通学手段 ・人口減にて、学校がなくなる要因となる	・脊振ならではの自然や歴史を活かした特色や魅力ある学校教育を行えばよい （来年度からの動きとして、現在、教育委員会が準備を進めている学区を超えて児童が就業できる制度あり→小規模特認校） ・子供が少ないことより、特別学校の誘致を行う（背振の自然の魅力を背景とした特別学校の開設）	・課題として少子化による学校の存続が上げられる。 ・課題の解決方法として、自然や歴史を活かした特色や魅力ある学校教育による他の学区からの生徒確保、特別学校の誘致などが上げられる
情報共有・交流	情報発信・説明不足	・水没地域は説明があるがそれ以外の地域への説明があない、ダムの上流域地域への説明が不足している ・住民への説明の必要がある ・見つめ直しの機運づくり ・住民と行政の温度差を感じる、危機感の共有	・危機感の共有	・課題として、情報不足（水没地域以外）、行政と住民との温度差などが上げられる。 ・課題の解決方法として、過疎化などの危機感の共有（住民、行政など）が上げられる。
	交流	・上流部、下流部への説明 ・下流域も含めた地域振興を意識するしかけづくり ・下流受益地・住民への感謝の意識 ・感謝する気持ちを伝える	・情報不足による説明会の開催 ・上下流交流を持つためのつながり	・課題として、上下流への説明不足、下流域も含めた意識づくり、感謝の気持ちの共有などが上げられる。 ・課題の解決方法として、説明会の開催や上下流交流の仕組みづくりなどが上げられる。
全般		・課題解決や魅力向上のためのまちづくりを、だれが行うか? ・魅力をできるだけ残せるか ・ダム建設あえて生かそうとしなくてよい ・流水型では上流地域にメリットはない ・あまりダムに関心がない	・自然を活かした町づくり	※全般のため省略

７－４．住民ワークショップの総括（佐賀大学五十嵐教授）

皆さんお疲れさまでした。予定の時間も超過しておりますので、簡単に私の感想というかコメントを述べさせていただきたいと思います。各テーブル、笑いあり、ぼやきあり、わいわいといろいろ意見出しをしていただきました。先ほど出された意見は委員会のほうに必ず挙げて、私たちが最終的にまとめていく活性化の中に、可能な限り盛り込む努力をしたいと思っています。その上で、総評的なものですけれども、全てのグループそれぞれについて言う時間はありませんので、ポイントだけ私の感想を申し上げます。

A グループをはじめ、ダム建設というのを否定的にどうしても捉えがちですけれども、例えばA グループは水をあらためて見直す。水の大事さ、あるいは水の活用策、それをあらためて見直すような意見がございました。小水力発電だとか、こちらは水車米だったでしょうか。水を活用して、それで何とか地域の、ある意味、将来像の根幹にしていこうという。ダム建設があるが故に、あらためて水の大事さ、水の活用の必要性、そんなことを言われたかと思います。その水の大事さ、水を活用するためには、やはり森林をしっかり保全しなければいけないという意見もありました。林業の振興と水を活用することはセットで考えていいだろうと思っています。

もう一つ。A グループのほうから小さな拠点という言葉が出ました。こちらのグループはにぎわいのある町づくりと言われました。合併前、あるいは合併以前 10 年、20 年、30 年前、広滝、ここが小さな拠点というべき場所なのですが、にぎやかでした。その当時のにぎやかさをもう一度、同じようなにぎやかさにするのは、正直言って人口が減少する社会の中では厳しいと思っています。今、目指している小さな拠点というのは、その周辺の厳しい状況にある集落に住んでおられる方が、最低限ちょっとした日用品を買い物に行ける場所だと。あるいは病院はないのですが診療所でちゃんと診察してもらえると。今、遠隔医療もどんどんありますので、さまざまな IT 機器を通じて小さな拠点のいろんな在り方があると思います。あちこちで空き家対策も出てきました。

あるいは企業誘致の話も出てきました。この脊振のほうはインターにも近いですし、用地さえあれば確かに工場誘致は可能かと思います。しかし、全国的に見て地方に製造業のような工場を誘致することが厳しい状況になっています。今、空き家活用等で地域の活性化に大きな貢献をしているのは、サテライトオフィス言いますが、IT だとかクリエイティブな仕事をする小さな企業が一時滞在という形で地方の空き家をリフォームして、そこで仕事をすると。福岡の IT 系企業、東京の IT 系企業でもいいのですが、こういう自然の中で短期間、数年かもしれません。そういう業務を行うような新しい企業誘致の仕方が可能性として考えられると思います。そういったかたがたはある意味、若い人たちですから、そういった若いかたがたがいろんな情報発信をしてくれると、IT の力を使ってですね。そういう企業誘致のことも考えられるだろうと、そのように思いました。

それと、B グループでしょうか。C もそうですね。歴史資源を活用しようということで、どこかのところは点を線でつなぐというお話がございました。観光振興を考えるときに、脊振だけで考えてみても観光客は集まってこない。隣接する吉野ヶ里、東脊振、あるいはこちらの三瀬、佐賀市のほうですね。もう少し広域的な観光ルートを開発する中で、人の流れをしっかりつくっていくと、そういう発想も必要になってくるだろうと、そんなふうに私は考えました。

他にも言いたいことがたくさんあるので。それから C グループでしょうか。自然体験を何とか活用したいということで、まだまだ元気な高齢者がおられるから、そういう体験教室を開いたらどうか。あるいは貸農園できるよというような提案がございました。こういうのはいわゆる生

きがい就労といいます。リタイア後、年金プラス 1 万円、2 万円の小遣い稼ぎが出れば、高齢者のかたがたはまだまだ元気です。やっていけます。それが直売所に小さな畑で作った野菜を出して、それで年金プラス 1 万円、2 万円、稼ぐ方法もあれば、そういう教室を開いて、そこで先生役となって小遣い稼ぎをすると。そういう働き方がこれから必要になってきます。そういう場を、機会をどうやってつくっていくのかといったことが提案として出されました。それも非常にいいアイディアだと、そういうふうに考えます。

他にもたくさんあるのですけれども、取りあえず私がぱっと今、思い付いた範囲でそれぞれのグループが出された意見について、検討委員会等で深く考えていいようなテーマ、アイディア、そういったものがたくさん見いだされました。他にもたくさんございます。このワークショップの内容をまた市のほうでまとめ上げて、参加者にこれは返せますか、ワークショップの取りまとめは。返せますよね。1 回目、2 回目も含めて、ワークショップで話し合われた内容をしっかりとまとめて、参加者のかたがたはもちろんですけれども、いろんな方法を通じて地域の住民のほうにお知らせをしたいと思っています。皆さんのワークショップでの話し合い、これを決して無駄にしない。大事に私どもはそれを受け止めて、何とかまとめ上げる材料として活用させていただきたいと思っています。少々長くなりましたけれども、全体的な講評でした。どうもありがとうございました。